

公立大学法人福岡県立大学 暫定評価

I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人福岡県立大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡県立大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを使命としている。

今回実施した中期目標期間評価の暫定評価は、6年間の第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）が令和5年度に終了することに伴い、次期中期目標に向けての法人の組織及び業務全般のあり方等についての検討に資するものとするため、中期目標期間の終了前に、中期目標期間の業務実績について暫定的な評価を実施したものである。

具体的には、中期目標期間の4年経過時における中期目標の達成状況及び認証評価機関の評価結果を踏まえて実施した。

なお、令和5年度までの6年間の業務実績については、中期目標期間終了後にあらためて評価結果を確定させることとしている。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（地域貢献及び国際交流）について「達成状況が非常に優れている」、5項目（教育、研究、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「達成状況が良好である」と評定した。

福岡県立大学は、「学生ファースト」の理念を掲げる公立大学として、専門的職業人としての能力の育成はもとより、社会の変化に対応できる潜在能力や汎用力を身に付けるための全学横断型教育プログラムの充実に取り組むとともに、不登校・ひきこもりサポートセンターの運営や看護師の特定行為研修の実施など地域の課題解決に貢献する活動を積極的に展開し、成果をあげている。令和2年度からは新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けているが、遠隔授業も的確に組み合わせて学生の学修機会を確保しており、またシミュレーションルーム等を整備し学内実習を充実させるとともに、eラーニングやオンラインによる国際交流を進めるなど、教育研究の維持向上に取り組んでいる。

特に、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談対応や学生の子どもサポート活動、学生ボランティア派遣による学習支援など大学が一体となった取組に加え、新たに不登校児童生徒の社会的自立支援体制の構築に取り組むなどの顕著な成果をあげてい

る点はきわめて優れている。

また、令和4年度に受審した認証評価においては、「福岡県立大学は、大学教育質保証・評価センターが定める大学評価基準を満たしている」と評価されている。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の中期目標期間の終了前に見込まれる中期目標期間の業務実績評価（暫定評価）については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては達成状況が良好であると認められる。

中期目標期間の各年度の業務実績評価及び今回の暫定評価の結果を踏まえ、引き続き、構築した内部質保証体制を機能させながら、地域貢献活動をはじめとする取組の一層の推進を目指し、中期目標・中期計画の着実な達成に努めるとともに、内部質保証における組織的な取組などの中で明らかとなった課題や今後目指すべき方策については、次期中期計画の作成に反映され、法人の継続的な質的向上に資するものとされたい。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

教育については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成
 - ・保健・医療・福祉の各分野の専門的知識と他の専門職との協働について体系的に学ぶ「多職種連携プログラム」を立ち上げ、福祉社会における多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成を目指すなど、特色ある教育を展開している。
 - ・導入教育科目の充実や教養演習テキストの改訂、語学教育の強化などに取り組んでいるほか、コロナ禍においても新入生が遠隔授業を円滑に受講できるようきめ細かな対応を行い、学習の基盤づくりを強化するなど、教養教育を充実させている。
 - ・人間社会学部において、全学横断型教育プログラムの履修科目を充実させ、履修要件を満たした学生に学修証明書を交付するなど、教育の充実に取り組んでいる。
 - ・看護学部において、履修科目の充実やOSCE（客観的臨床能力試験）の実施、ケアリング・アイランド大学コンソーシアムでの共同授業の実施など、看護技術の強化に取り組むとともに、コロナ禍においても学内にシミュレーションルーム等を整備し、実習教育を充実させている。

- ・看護師、保健師、精神保健福祉士等の各種国家試験合格率が、高水準を維持している。

(2) 高度専門職業人の人材育成

- ・大学院生を対象とした満足度調査や座談会を実施して学生の意見を取り入れ、シラバス様式の全面改訂やメディア授業科目の設置を行うなど、大学院教育の充実に取り組んでいる。

(3) 教育活動の活性化

- ・教員を対象としたセミナーや授業参観ウィークの実施等、ファカルティ・ディベロップメントを推進するとともに、学修成果を的確に把握するためのアンケートやアセスメント・プランを実施するなど、教育活動の活性化に取り組んでいる。

(4) アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保

- ・インターネット出願への移行、入試説明会参加や高校訪問等の高大連携事業の実施に加え、コロナ禍におけるオンラインを活用したオープンキャンパスや個別相談会の開催、国公立大学初となる全国児童養護施設推薦特別選抜の導入など、意欲ある学生の確保のために様々な方策を講じている。

(5) 学生の学修支援と生活支援

- ・コロナ禍において e ラーニングコース開設数を大幅に増加させているほか、学生支援の窓口を一本化するための「学生総合支援センター」を開設し、学修、学生支援体制の充実に図っている。
- ・寄附金を活用した特別奨学金制度を新設し、経済的理由により修学が困難な学生を支援している。

(6) キャリア支援

- ・キャリアマネジメント関連科目の充実等、キャリア教育の推進に取り組むとともに、コロナ禍においてもインターシップをオンラインと対面のハイブリットで工夫して実施しているほか、教職協働体制の下、きめ細かなキャリア支援に取り組み、就職率が高水準を維持している。

2 研究

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

研究については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・附属研究所において組織体制を見直し、学際的研究プロジェクトを推進するとともに、地元自治体と連携協定を締結し、地域の課題解決に向けた共同研究を行っている。
- ・科学研究費補助金等の応募件数、獲得件数ともに目標を上回っており、外部研究

資金の獲得に努めている。

3 地域貢献及び国際交流

評価	5：中期目標の達成状況が非常に優れている。
----	-----------------------

地域貢献及び国際交流については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施するとともに、特に優れた実績を上げている実施事項や福岡県の行政課題の解決に貢献する取組、中期計画に掲げる実施内容以外にも地域貢献に関する積極的な取組が認められることから、達成状況が非常に優れていると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・看護師・社会福祉士等の資格・免許保持者等を対象とした研修会を継続して実施するとともに、看護師の特定行為研修事業を開始するなど、地域ニーズに的確に対応したリカレント教育に取り組んでいる。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて不登校やその支援に関する相談や県大子どもサポーターの派遣、キャンパス・スクール事業等を実施していることに加え、不登校児童生徒の社会的自立支援に向けたネットワーク構築、新たな不登校を減少させるための不登校情報の分析支援の取組を開始するなど、不登校・ひきこもり対策に優れた実績を上げている。

また、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」において、地域の補充学習の場に学生を学習ボランティアとして派遣し、学生の社会貢献・ボランティア活動を積極的に支援している。

- ・海外の交流協定締結校との教員交流や短期研修プログラム（派遣）などに取り組むとともに、コロナ禍においても協定校とオンライン交流イベントを行うなど、国際交流を進めている。
- ・学生・教職員と地域の教育関係者等を対象に、新型コロナウイルスの大学拠点接種を行ったほか、大学体育館を新型コロナウイルスワクチン広域接種会場として県に貸し出した。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

業務運営の改善及び効率化については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・看護師を対象とした特定行為研修を実施するための研修室の整備や学内実習を充実させるためのシミュレーションルームの確保、学生窓口の一本化を図るための関係部署の移設など、学内資源の配分を継続して見直している。
- ・インターネット出願システム及び電子シラバスを導入するとともに、入学検定料の収納業務、遠隔授業導入に際してのITに関する相談対応業務等の外部委託を行うなど、業務の効率化に取り組んでいる。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

財務内容の改善については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得に努めており、目標を上回る収入実績をあげている。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「学生ファースト」の理念の下、内部質保証体制を整備し、学生の意見を把握するなどして、教育の改善を図るとともに、大学改革セミナーの開催を通してPDCAサイクルの向上を周知し、全学での取組を図るなど、内部質保証システムの維持・向上に取り組んでいる。
- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開している。